

## ◆ 今週のコメント

- ・腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT2)の報告が1例で、本年初めての報告です。昨年(平成19年)の年報告数は54例で、O血清型別にみると、O157が49例で最も多く、O111 3例、O26 2例となっています。
- ・レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例あります。本年の累積報告数は4例で、過去7年間(平成13年～平成19年)の同時期までの報告数0～1例と比べて最も多くなっています。

## ◆ 今週のトピックス:<インフルエンザ>

- ・定点当たり報告数は7.78で、本年に入り、本市、全国ともに増加傾向が続いています。詳細は、トピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

(性別, 年齢, 症状, 推定感染地域, 推定感染経路の順に掲載。ただし, 結核は除く。)

- ・二類: 結核 5例(喀痰塗抹陽性 3例) 【1月以降の累積報告数 24例(喀痰塗抹陽性 9例)】
- ・三類: 腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT2) 1例
- ・四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ <sup>a</sup>	インフルエンザ	7.78	529
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.63	272
	② 水痘	0.90	37
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.61	25
	④ 手足口病	0.34	14
	⑤ 突発性発しん	0.29	12
眼科	流行性角結膜炎	0.90	9

### 病原体情報

(検体名は, 紙面の都合上, 咽頭ぬぐい液をNP, 糞便をFC, 髄液をSF, 尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
エコーウイルス30型 (1)	熱性けいれん(第2週)	FC	アデノウイルス1型 (1)	感染性胃腸炎(第52週)	FC, NP
RSウイルス(1)	かぜ症候群(第52週)	NP	アデノウイルス1型 (1)	感染性胃腸炎(第52週)	FC
ノロウイルスGII(4)	感染性胃腸炎(第2・3週)	FC			

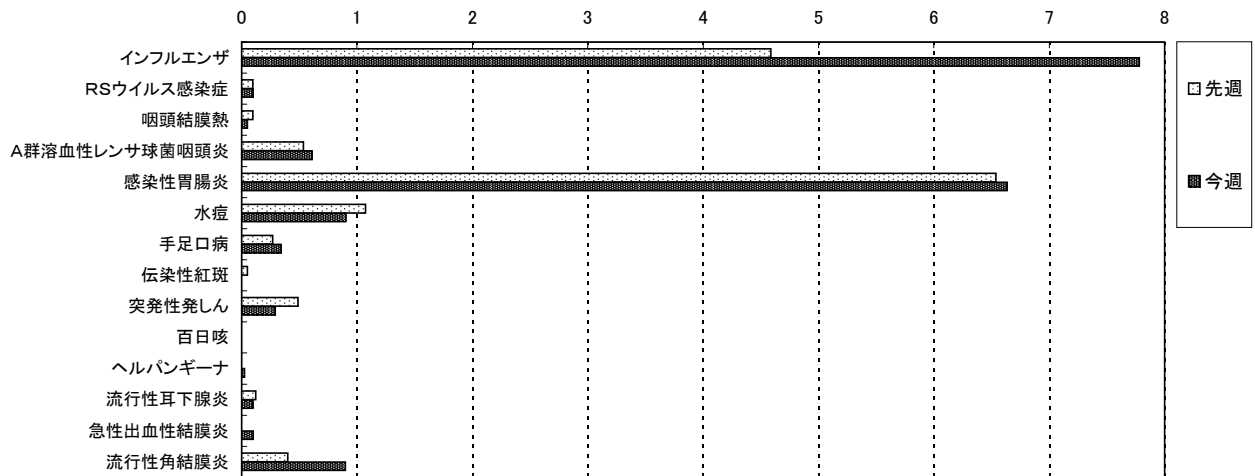
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは, 平成20年2月5日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在の保健所での集計で, 患者の住所を示すものではありません。  
病原体情報は, 病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

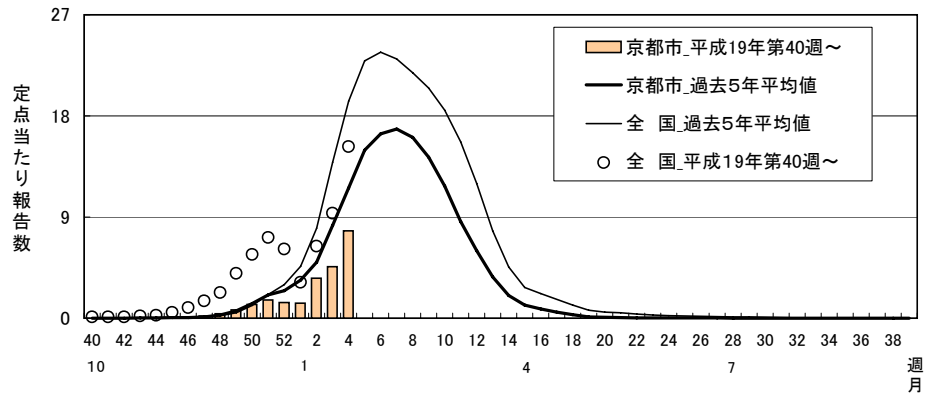
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第4週)と先週(第3週)の定点当たり報告数の比較



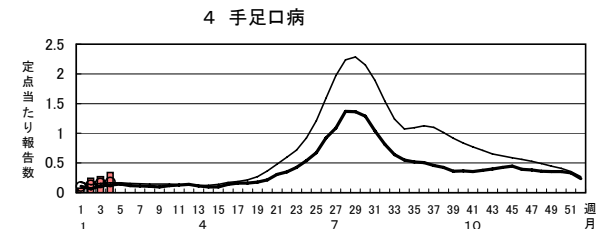
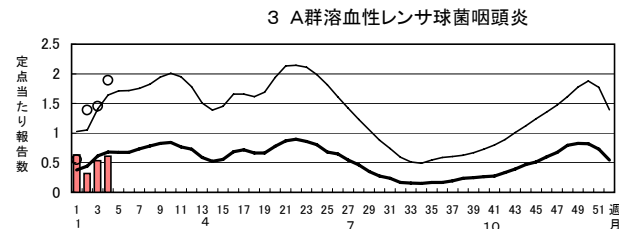
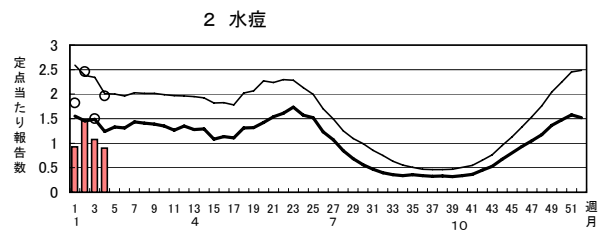
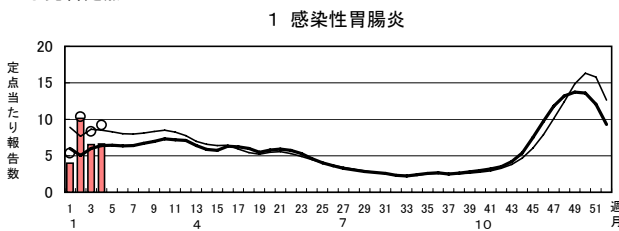
## 2 インフルエンザの定点当たり報告数の推移

週	報告数(例)
第52週	94
第1週	91
第2週	242
第3週	312
第4週	529
累積報告数 (第40週以降)	1566

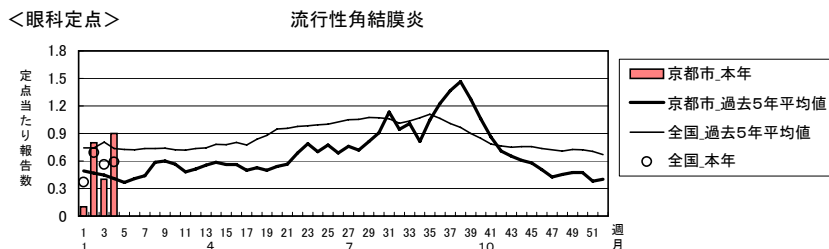


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



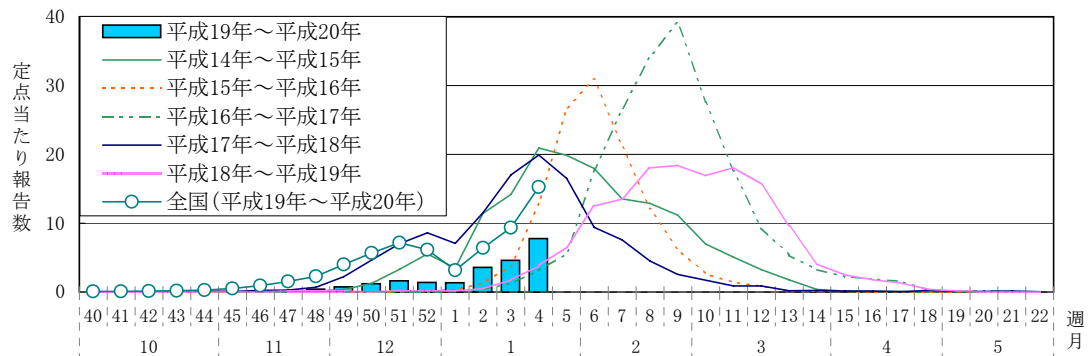
<眼科定点>



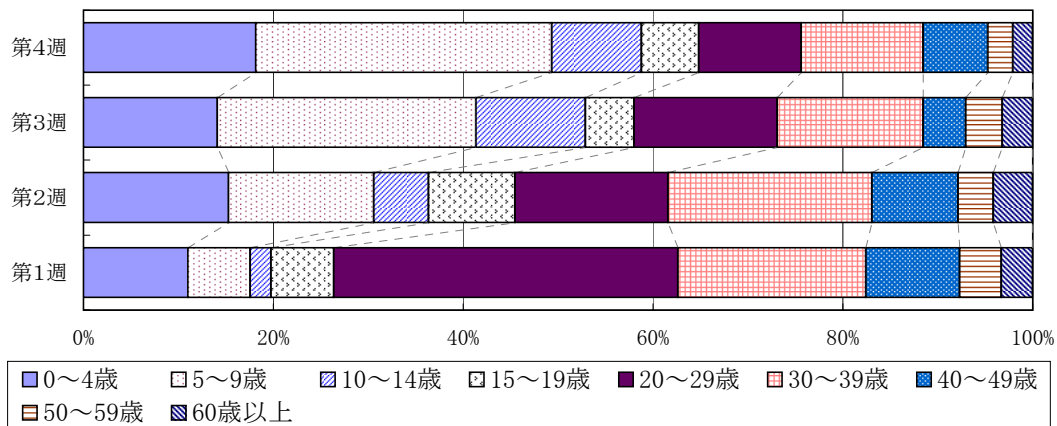
# 今週(第4週)のトピックス: <インフルエンザ>

定点当たり報告数は7.78で、本年に入り、本市、全国ともに増加傾向が続いています。  
 年齢群別に推移をみると、9歳以下の低年齢層での割合が増加してきています。  
 行政区別にみると、先週に比べ今週は南区を除き、ほとんどの行政区で報告が増加しており、11行政区中、6行政区で、過去5シーズンの上位10%値を上回る値となっています。  
 なお、京都府では、定点当たり報告数が10を超え、昨年よりも2週間早く注意報を発令していますので、今後も引き続き、動向にご注意ください。

定点当たり報告数の推移



年齢群別構成割合の推移



行政区別定点当たり報告数

